

男と女

おとめ座さんとやぎ座くん

桐乃さち

人物

柴尾健太(19)大学生

菅野美菌(21)大学生

柴尾和夫(53)柴尾の父

柴尾美穂(49)柴尾の母

ボート乗り場の係員

○パン屋 ベーカリー柴尾 外観（夜）

古い三階建てのビル。一階部分がパン屋になっている。「ベーカリー柴尾」と書かれた看板。電気が消え、ドアに「閉店」と言う看板がかかっている。

1

○同 屋上（夜）

小さなプレハブ小屋がある。柴尾健太（19）、プレハブ小屋の上に座り、双眼鏡で外を見ている。斜め向かいの5階建てのマンションの一室を見ている。料理をする、菅野美蘭（19）が見える。男性がギターを弾いている。美蘭が男性に何か言う。男性、何か言い返す。美蘭と男性、言い争っている。柴尾、双眼鏡を目から外し、立ち上がりかける。柴尾、再び双眼鏡を目に当てる。男性、美蘭を殴る。柴尾、立ったり座ったりする。柴尾、再び双眼鏡を目に当てる。美蘭、手を頬に当てて、泣い

2

ている。柴尾、慌てて梯子を使ってプレハブ小屋から降りる。柴尾、足を引っかけて転ぶ。屋上のドアが開き、柴尾美穂(49)が顔を出す。美穂、手にビニール袋を持っている。

美穂 「健太、あんたが好きなカレーパン残ったから。食べるでしょ？」

柴尾、地面に転んでいる。

美穂 「何やってんの？」

柴尾 「何でもない！」

美穂 「パンは？」

柴尾 「いらない！」

柴尾、プレハブ小屋に飛び込む。美穂、ため息をつく。

美穂 「ったく。ごろごろしてないで、たまにはお父さん、手伝いなさいよー」

美穂、プレハブ小屋のドアノブにビニール袋をかける。

○同 プレハブ小屋 中(夜)

小さな机やベッドがある。柴尾、ベッドに飛び込み、布団にくるまる。

柴尾「あー！」

柴尾、頭をかきむしる。

○同 屋上（朝）

太陽が昇っている。プレハブ小屋のドアが開き、髪がぼさぼさの柴尾が出て来る。柴尾、ドアノブにかけられたビニール袋を見つめる。

○大学 全景（朝）

たくさんの学生が行きかっている。

○同 占いサークル 部室 前（朝）

古い校舎の一室。ドアに「占いサークル」と書かれた張り紙。

○同 部室 中（朝）

棚に各種占いの本、水晶玉やタロット

カードが並んでいる。美菌と柴尾がいる。美菌、カレーパンを食べている。美菌「やっぱり、柴尾君の家のカレーパン、美味しいね！」

美菌、左頬にあざが出来ている。柴尾、美菌の顔をじっと見つめる。美菌、柴尾の視線に気が付き、頬をさする。

美菌「あ、これ、やっぱり目立つ？」

柴尾「どうしたんですか？」

美菌「食器棚からお皿を取ろうとしたら落としちゃって。ほんと、ドジだね」

柴尾、唇を尖らせて俯く。

美菌「ねえ、今日の占いどうなってる？」

柴尾「あ、はい」

柴尾、新聞を広げる。

柴尾「えーと、あ、おとめ座は6位ですよ。

自分を見つめ直すことによつて、幸運を発見することができるとしよう、ですって」

柴尾、美菌の顔を伺う。美菌、顎に手を当てて考え込んでいる。

美菌「さそり座は？」

柴尾「え？さそり座？えーと、2位です。諦めていたことに逆転のチャンス。望みが叶う可能性の高い幸運日です」

美菌、笑顔でガッツポーズをする。

美菌「やった！」

柴尾「さそり座って？」

美菌「彼氏が、さそり座なの。あの人、夢追い人だからね。教えてあげようっと！」

美菌、スマホを操作している。柴尾、拳を握り締める。

柴尾「さそり座ってどうなんですかね？」

美菌「え？」

柴尾「短気だったり、嫉妬深いって言われてますけど」

美菌「感情が激しくて、野心家なのよ」

柴尾「自分の信念を人に押し付けがちだとか」

美菌、柴尾の顔をじっと見つめる。

柴尾「あ、いや。一般的にですけど……」

美菌「さそり座は何をするにも一生懸命で全

力投球なの。誤解されがちだけど、高い目標を持っているから、仕方ないのよ」

美菌、柴尾の頭を撫でる。

美菌「よく勉強してるね。偉い、偉い」

柴尾、赤くなり俯く。

美菌「今日、みんな遅いね」

柴尾、新聞の「やぎ座」の欄を見て目を丸くする。「1位 積極的になれる日。ライバルがあなたにいい刺激を与えてくれそう」と書かれている。柴尾、拳を握り締める。

美菌「どうしよっか、そろそろ講義……」

柴尾「あの、美菌先輩！」

柴尾、机に手を叩きつける。

柴尾「これからちよっと、出かけませんか!？」

美菌、目を丸くする。

○井の頭公園 池

桜が満開。たくさんの手漕ぎボートが浮かんでいる。

○同 手漕ぎボート 上

柴尾と美菌が向かい合ってボートに乗っている。柴尾、ボートを漕いでいる。池は桜の花びらでピンク色に染まっている。美菌、花びらを掬い取る。

美菌「綺麗」

美菌、池をぼんやりと見つめる。

美菌「こういう所来たの、久しぶりだなあ」

柴尾「あ、あの、先輩」

美菌「うん？」

柴尾「俺、先輩の事いろいろ調べたんです！」

柴尾、鞆からノートを取り出す。

柴尾「9月5日生まれのおとめ座は、理想主義者で忠誠心が強い。人を信じやすく、己の感情を抑制しがち」

美菌、首をかしげる。

柴尾「見返りを期待せず人の手助けをする慈悲深さがあるが、自分に自信がないのが欠点、だそうです」

柴尾、唾をぐくつと飲み込む。

柴尾「先輩！自信を持って下さい！先輩は優しいし、すごく、あの、綺麗なんですから！あ、いや、見た目じゃなくて、中身がです！」

柴尾、肩を怒らせて荒く息をする。

美蘭「ありがとう」

柴尾「それです、あの。僭越ながら、先輩にぴったりの男性も調べさせていただきますました」

美蘭「え？」

柴尾「き、聞いて下さい！先輩の魅力を最大限引き出し、なおかつ癒しまで与えてくれる最高のパートナーを、星座占いで割り出しましたんです！」

柴尾、急いでノートをめくる。ポータ乗りの係員が手を振っている。

係員「そろそろ引き上げて下さい！」

美蘭「柴尾君、時間だつて」

柴尾「いるんですよ、そういう相手が！しかも、先輩のすぐ側に！」

係員「戻って下さい！」

ボートが岸の方へ戻って行く。

柴尾 「いいですか！？その相手は」

美菌 「柴尾君」

柴尾、ノートを見つめる。ノートには

「1月9日生まれのやぎ座「俺！」と書かれている。

柴尾 「その相手はですね！」

美菌 「待って！」

柴尾 「え？」

美菌 「私の運命の相手は自分で決めたいの」

美菌、柴尾の手からボートのオールを

取る。美菌、笑顔でボートを漕ぐ。

美菌 「戻ろう」

柴尾 「何ですか？美菌先輩は、星座占い、

大好きじゃないですか！」

美菌、黙ってボートを漕いでいる。柴

尾、唇を噛んで俯く。

美菌 「おとめ座ってね、一途なの。一度好き

になった人の事は放っておけないし、絶対

に見捨てないの」

美菌、柴尾に笑いかける。

美菌「柴尾君も優しいと思うよ。私はやぎ座の人の誠実な所が好き」

美菌、ゆっくとボートを漕いで行く。

○パン屋 ベーカリー柴尾 屋上（夕）

プレハブ小屋の上に、柴尾が座っている。柴尾、双眼鏡を目に当てようとして、止める。柴尾、走り出す。

○同 キッチン（夕）

広いキッチン。柴尾和夫（53）がパン生地をこねている。柴尾、エプロンをつけ、入って来る。

柴尾「父さん、カレーパンの作り方教えて欲しいんだ」

和夫、目を見開いて汗を拭う。

和夫「何だ、珍しいな」

柴尾「食べさせたい人がいるんだ！」

柴尾、深く頭を下げる。

